

『認知症たすけるすけ』

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気です。万が一認知症になっても、周囲の理解と気遣いがあれば地域で生活続けることは可能です。

八戸市における認知症の患者数の推計は、令和6年3月末現在で約13,300人（高齢者人口の19.0%）となり、今後も高齢化の進展に伴い、増加していくことが見込まれています。

認知症は早期診断・早期治療が重要と言われていますが、現実には認知症に対する理解不足や偏見、相談先がわからない等により適切な医療や支援が遅れ、気づいた時には症状が進んでいる場合が少なくありません。その結果、生活上様々な困りごとが起こり、それによって本人だけではなく家族や地域の人々の不安や負担も大きくなっていきます。

市では、認知症に関する情報をまとめた『認知症の人と家族の道しるべ手帳（八戸市認知症ケアパス） 認知症たすけるすけ』の普及版・別冊版を作成しました。認知症の人やその家族ができる限り住み慣れた地域で認知症になっても安心して生活できるよう、困ったことがあれば、認知症ケアパスをご活用ください。

